

米子工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	日本語教育Ⅲ	
科目基礎情報							
科目番号	0074			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子制御工学科			対象学年	4		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	テキストを使用。補助としてプリント配布。						
担当教員	秋吉 由美子,布施 圭司						
到達目標							
1) 様々な文の読解ができるようになること。 2) 卒業論文が日本語で書けるようになること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	様々な文の読解ができる。			様々な文の読解がややできる。		様々な文の読解ができない。	
評価項目2	卒論が日本語で書ける。			卒論がだいたい日本語で書ける。		卒論が日本語で書けない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 A-2							
教育方法等							
概要	日本語がある程度できる留学生を対象に、論理的な文章の読解を通して、論理的文章の読み書きができるようになることを目指す。授業自体は直接法で行う。						
授業の進め方・方法	いろいろな分野の文の読解を行い、文の文体になれる。またレポートを日本語で書かせ、添削指導を行うことによって作文能力の向上を図る。授業はすべて日本語で説明する。 なお、本科目は学修単位であるため、60時間以上の時間をかけてレポートを作成すること。						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	論理的文章とレポートの書き方と読解		論理的文章とレポートが書け、読解ができる。		
		2週	論理的文章とレポートの書き方と読解 宿題レポート1		論理的文章とレポートが書け、読解ができる。		
		3週	論理的文章とレポートの書き方と読解		論理的文章とレポートが書け、読解ができる。		
		4週	論理的文章とレポートの書き方と読解 レポート1 添削		論理的文章とレポートが書け、読解ができる。		
		5週	論理的文章とレポートの書き方と読解 宿題レポート2		論理的文章とレポートが書け、読解ができる。		
		6週	論理的文章とレポートの書き方と読解		論理的文章とレポートが書け、読解ができる。		
		7週	論理的文章とレポートの書き方と読解 レポート2 添削		論理的文章とレポートが書け、読解ができる。		
		8週	論理的文章とレポートの書き方と読解 宿題レポート3		論理的文章とレポートが書け、読解ができる。		
	4thQ	9週	中間試験		前期中間試験に取り組み、到達目標を確認する。		
		10週	論理的文章とレポートの書き方と読解		論理的文章とレポートが書け、読解ができる。		
		11週	論理的文章とレポートの書き方と読解 レポート3 添削		論理的文章とレポートが書け、読解ができる。		
		12週	論理的文章とレポートの書き方と読解 宿題レポート4		論理的文章とレポートが書け、読解ができる。		
		13週	論理的文章とレポートの書き方と読解		論理的文章とレポートが書け、読解ができる。		
		14週	論理的文章とレポートの書き方と読解 レポート4 添削		論理的文章とレポートが書け、読解ができる。		
		15週	期末試験		期末試験に取り組み、到達目標を確認する。		
		16週	振り返りとまとめ		これまでの内容の理解の確認		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	2		
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	2		
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	2		
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	2		
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	2		
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	2		
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	2		
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	2		

				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	2	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	2	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	2	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	2	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	2	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	2	
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	2	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0